

能登復興ネットワーク 活動報告書

2024年度

2024年1月～2025年3月

能登が能登らしく復興するために

令和6年能登半島地震の発災から1年。あっという間の時間でした。けれど、これはきっと始まりに過ぎず、ひとつの通過点でしかありません。自然と共に、つつましく暮らしていた能登の人々の日常は、揺り動かされ、破壊され、失われ、傷ついてしまいました。元日の発災だったということもあり、帰省中に帰らぬ人となった方々もいます。さらに、9月21日の能登豪雨での二重災害は、復興に向けて前を向き始めていた能登の人々の心をくじきました。なぜ、能登が。なぜ、この日に。そんな怒りにも似た問いかけに、答えを出せるのは、これからの私たちの歩みにかかっていると感じています。

最初は、能登災害支援ネットワークという名前で、呼びかけをはじめました。中心となったのは、七尾市で民間まちづくり会社として、2007年の能登半島地震以来、中間支援機能を担ってきた(株)御祓川と、能登でコミュニティ財団の設立を準備していた「七尾未来基金設立準備会」です。しかし、ほどなく災害支援だけではなく、復興の歩みを支えるために「能登復興ネットワーク」としてクラウドファンディングを実施しました。実に多くの方々からの支えをいただきながら、支援活動を展開してきました。私たちの活動を支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。災害時には、様々な支援活動が動きますが、一団体でできることは限られています。それは行政であっても社会福祉協議会であっても同じです。それぞれが役割を果たすことができるように、つながりをつくり、ネットワークの力によって、一団体ではできないことを可能にしていきます。長期化するであろう復興に取り組むための体制を整えながら、これからも、地域外のリソースと地域内の課題をつなげていきます。「能登らしさとは何か？」という問いを探究しながら、「能登が能登らしく復興するために」歩みを進めてまいります。

私たちの復興への歩みは、まだ始まったばかりです。これまでのご支援に心からの感謝をお届けし、これからのさらなるご支援をお願い申し上げて、この1年間の歩みについて、ご報告いたします。

一般社団法人能登復興ネットワーク

① 情報共有会議の開催

■ 全国の民間支援者・能登のメンバーとの情報共有会議（1/2～）

民間支援事務局との連携で、震災前からつながりのあった地元、外部の支援者を中心にオンラインによる情報共有会議を開催。現在は隔週で開催を続けており、現地活動団体同士の情報共有、また外部からの支援をつなぐ場として機能している。

開催回数	のべ参加者数
46回	1086人

■ 七尾で活動する支援者の情報共有会議（1/18～7/13）

七尾市内で活動する地域内外の支援者が一堂に会して知り合い、情報と課題を共有する会議（いやさか会議）を日本ファシリテーション協会の協力によって開催。市民ボランティアや災害専門団体、東北・熊本での災害対応経験者などが参加。会議以外もLINEのオープンチャットで適宜情報を交換して連携。現在は七尾市災害VCが開催する連携会議に統合され、市内のボランティア件数の集計作業を担当。

開催回数	のべ参加者数
11回	352人



② 支援物資の調整（1月～）

震災前のつながりから、様々な物資の支援が寄せられました。七尾市内の倉庫をお借りし、民間の物資拠点をづくり、必要な場所に物資が行き届くようコーディネートを行いました。

水18万リットル、ブルーシート11万枚、ガラ袋20万枚、
生理用品12万個、簡易トイレ5万5千個を
日本青年会議所（JC）のネットワークで
能登全域にプッシュ型で配布

WOTA 水再生プラントシャワー導入支援
断水中の七尾市において、避難所となっている矢田郷地区コミュニティセンター含む4基の設置をコーディネート

飯尾醸造から給水車を受け入れ、飲み水と生活用水を七尾市内の避難所、自主避難所、町内会等にマッチング。また同社からの寄付をもとに、炊き出しチームへの支援を実施

エアベッドの物資支援と避難所のニーズマッチング
300台のエアベッドを物資として、市が作成した要支援者リストに基づき、ボランティアによる避難所への搬入オペレーションをコーディネート

株式会社ワコールから下着の提供を受け輪島市へ1,500着、能登町へ1,000着、珠洲市へ1,000着、穴水町へ500着をネットワーク連携で配送

Yogiboビーズクッション物資支援のコーディネート
ビーズソファ120点等を必要とする避難所に提供、奥能登にも配送

炊き出し原材料への支援コーディネート
きゅういち株式会社より、ホタテの提供。
大阪南港臓器(株)、日本畜産副産物協会等のご支援により、
塊肉約1.5tの寄付。
どんたく(株)のご協力により、肉スライスの体制をととのえ、
珠洲や輪島等の炊き出しチームとコーディネート



③ 避難所等のアセスメント

■ 七尾市被災状況と今後の意向に関する調査（2/1～2/16）

七尾市との連携協定のもと、より安全な場所で生活ができるように避難者の被災状況と今後の意向を把握することを目的とし、**七尾市内29ヶ所（自主避難所含む）の避難所**に訪問、聞き取りアンケートを実施。その結果をとりまとめて、仮設住宅の建設戸数や支援につなげた。



■ 七尾市被災高齢者等把握事業（4月～6月）

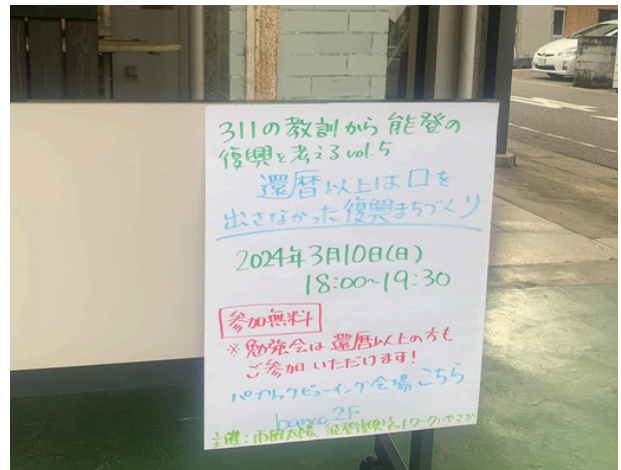
岡山NPOセンターが実施する県事業の調査にボランティアを派遣、拠点をコーディネートし、**七尾市内の高齢者や障がい者など1300名**を訪問調査。



旧西岸小学校を拠点とち中島町周辺の調査を実施。写真は調査にご協力いただいたボランティアの皆様

④ 勉強会の開催

能登らしい復興に向けて、東日本大震災をはじめとする過去の被災地の知見を学び、復興の担い手の共有知を能登に生かすための連続勉強会を開催。高橋博之さん企画による連続勉強会を全15回共催するほか、石川地域づくり復興塾を全6回共催。



これまでの勉強会

- ・ 311の教訓から能登の復興を考える座談会vol.1 ～新築の限界集落をつくらないために（宮城県雄勝町）〈1/20〉
- ・ 311の教訓から能登の復興を考える座談会vol.2 ～住民の声を復興計画に反映させるために（宮城県東松島市）〈2/12〉
- ・ 311の教訓から能登の復興を考える座談会vol.3 ～関係人口が漁業復活の力に（岩手県釜石市）〈2/16〉
- ・ これからの復興スキームはチーム創りが鍵を握る「経済復興なくして被災地の復興なし」〈2/23〉
- ・ 311の教訓から能登の復興を考えるvol.4 ～住民ゼロの町に100の新事業を創る〈3/3〉
- ・ 岩手能登復興連携ネットワーク視察報告会〈3/4〉
- ・ 市民による「まちづくり」の哲学vol.5 ～佐藤尚美（一般社団法人ウィーアーワン北上）〈3/8〉
- ・ 311の教訓から能登の復興を考える座談会vol.5 ～還暦以上は口を出さなかった復興まちづくり〈3/10〉
- ・ 311の教訓から能登の復興を考える座談会vol.6（特別編/新潟県山古志村）～住宅再建より集落再生を目指した復興〈3/18〉
- ・ 311の教訓から能登の復興を考える座談会vol.7 ～対立を乗り越えて住民合意を図るには〈3/24〉
- ・ 311の教訓から能登の復興を考える座談会vol.8 ～被災地の希望になる祭りの存在意義とは〈3/31〉
- ・ 能登地域の経営者による震災復興と地域リーダーシップの役割〈5/21〉
- ・ 能登半島地震復興の「ハブ機能」を考える〈5/27〉
- ・ 311の教訓から能登の復興を考えるvol.9（特別編/YAMAP代表春山慶彦）～流域の視点での復興〈6/7〉
- ・ 311の教訓から能登の復興を考えるvol.10（特別編/金沢大学 林直樹）
「撤退と再興の農村戦略～活性化が難しい集落の復興とどう向き合うのか」〈6/12〉
- ・ いしかわ地域づくり復興塾 〈9/7～12/21〉

⑤ 外部人材コーディネート

■ ボランティア派遣

被災地の支援ニーズ（要望）に対して、地域内外からのボランティア・学生ボランティアの派遣や、そのニーズに応えられる支援者／支援団体（個人・企業を含む）とのマッチングを実施

派遣先：

ねがみみらいクリニック、チームみそぎ、森本石油、パトリア、株式会社能登風土、中島小学校避難所、岡山NPOセンター、一本杉復興マルシェ、農業組合法人なたうち、合同会社CとH、珠洲市真浦町、数馬酒造、御祓川まつり、珠洲市馬繰町、農業組合法人めだかの里、能登町ブルーベリー普及センター、奥能登じろんどん、七尾教会、ござれ祭り（能登町柳田）、能登半島支援チーム、sien sien west、広域支援ベースにしぎし 等

ボランティア総計 **246 名**

ボランティア体験記／大学生Tさん

ニュースで震災の様子を見ることはありましたが、実際に現地に足を運ぶことで気づくことができた課題が沢山ありました。

また、全国各地からボランティア活動に来た方々との出会いもかけがえのないものでした。いろいろな仕事に就いている人が集まり、それぞれのスキルを活かして活躍している様子がかっこよく、「私も自分にできることを増やしたい！」と良い刺激をもらいました。

災害ボランティアと聞くと、私もそうでしたが、「危ない」「瓦礫撤去などの肉体労働ばかり」「専門的なスキルが必要」といった印象を抱く方が多いかと思います。しかし、現地には多様なニーズがあって、その分支援活動も多岐にわたっていることを知りました。

「何か力になりたいけど自分にはできないかも...」と思っている方でもできるボランティア活動がきっとあると思うので是非相談してみただけたらと思います。

「本当にありがたかった」「嬉しくて涙が出た」能登の人と話す中で、震災の直後に出動した警察や自衛隊の方々、数ヶ月後に県外からも駆けつけた数々のボランティア団体の方々への感謝の言葉を幾度となく聞きました。

困った時には沢山の救いの手が差し伸べられる。そんな暖かさが素敵だと感じだし、今回のボランティア活動を通して、自分もその素敵な集団の一員になれたこと、困っている人の力になれたことを実感して嬉しかったです。

今後も自分ができることを探していきたいです。



sien sien westでの家財出し活動の様子

■ 右腕派遣

プロジェクトへの関わりしるを明らかにし、復興の担い手となる地元リーダーの元に右腕となる人材をコーディネート。派遣元の協力団体と能登復興ネットワークとの三者契約によって、能登の復興リーダーたちの活動が前進するための体制づくりを支援している。

派遣先／協力団体	期間	プロジェクト内容
合同会社CとH ／株式会社ESCCA	7月1日～9月30日	短期インターンシップのコーディネート、研修の実施
株式会社御祓川 ／NPO法人岡山NPOセンター	8月1日～10月31日	地域づくり協議会、 支え合いコミュニティ支援
一般社団法人第3職員室 ／合同会社ハピオブ	8月1日～3月31日	ユースセンターの運営と規模拡大
一般社団法人のと復耕ラボ ／株式会社バリュースフト	8月1日～10月31日	水害後のボランティア受け入れ体制の構築、運営
一般社団法人sien sien west ／NPO法人岡山NPOセンター	11月1日～3月31日	民間災害ボランティアセンター「おらっ ちゃ七尾」の立ち上げ、運営支援
一般社団法人のと復耕ラボ ／個人	1月10日～3月31日	古材レスキュー事業の現場調整業務
一般社団法人のと復耕ラボ ／個人	2月1日～4月30日	ボランティア拠点運営、ボランティア活動のコーディネート
NPO法人外浦の未来をつくる会 ／個人	1月1日～6月30日	ボランティアコーディネート、珠洲市大 谷地区のコミュニティ支援



プロジェクト数 のべ派遣日数

8件 960日

⑥ 情報発信

■連載・能登の遺伝子

度重なる大災害を経て、私たちが何を考え、どう行動するのか。この連載では被災地のリアルな姿、将来に向けた被災者や支援者それぞれの営みを発信し、能登らしく復興する過程を記録するインタビュー企画を9エピソード配信した。

「悲しい場所にはしない」

そんな苦境の中で、杉野はあえてこう語る。「せっかく地震に遭ったんだから」。もちろん、被害を軽んじているわけではない。マイナス面ばかりに気を取られて失ったものを数えるだけでなく、目の前の現実をプラス方向に捉えてみよう、という意図である。

たとえば「地面が隆起して海底が露出してしまった」と考えれば、自然の巨大な力を前に、なす術もなかった人間の無力さに思い至ってしまう。この点、杉野は「僕らは浜を手に入れた」と表現した。

そう言われると、海底が隆起した港は、さながら「防波堤に守られたビーチ」である。これまで以上に地域を盛り立てるため、港としての本来の機能を取り戻す復旧作業を進めるのと並行し、新たに加わったビーチという機能を地域資源として活用する。ちょうど、全国の人々が能登に手を差し伸べてくれている。今だからこそ実現できることがあるかも知れない、ということだ。

「能登を、震災の記憶ばかりが残る悲しい場所にはしない」

杉野は再び走り出した。

（「僕らは浜を手に入れた」／地震で失ったもの、新たに得られたもの／株式会社湊 代表取締役・杉野智行さん^①より抜粋）

■シン・いやさか会議（9/26～）

地域外から能登の状況を知りたいという方に向け、毎月オンラインでの報告会を開催。地元のリーダーや災害支援団体が登壇、現状を報告していただき、意見交換の場を設けることで、地域内のキーマンと地域外の支援者が出会う場となっている。

開催回数 のべ参加人数

7回 591人

11月シン・いやさか会議『能登の今とこれから』対談の様子
右上・(一社)能登官民連携復興センター 杉本拓哉さん
右下・(一社)NOTOTO 宮下杏里さん/輪島市門前町
左上・外浦の未来をつくる会 重政辰也さん/珠洲市大谷地区
左下・(一社)能登復興ネットワーク 森山奈美



① 能登復興ネットワーク会員 (~9/30)

(一社)能登復興ネットワーク賛助会員 (10/1~)

株式会社 御祓川
 株式会社 おやゆびカンパニー
 株式会社 百笑の暮らし
 株式会社丸一観光
 一般社団法人のと復興ラボ
 合同会社CとH
 一般社団法人災害時緊急支援プラットフォーム(PEAD)
 一般社団法人 感環自然村
 株式会社 CoAct
 NPO法人 ETIC.
 株式会社Mutubi
 いしかわ地域おこし協力隊ネットワーク
 チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト
 秋元祥治(武蔵野大学 教授)
 合同会社あおときいろ
 一般社団法人ワカツク
 辰巳真理子
 能登地震学生グループ「わかものと」
 公益財団法人共生地域創造財団
 特定非営利活動法人ブレン・ヒューマニティー
 テオ株式会社
 避難者・被災者支援サポートボランティア「ひなさぽ」
 惚惚 / hotel notonowa
 のとぼし合同会社
 一般社団法人のとくまの
 塩田真弓
 特定非営利活動法人岡山NPOセンター
 一般社団法人リディラバ
 株式会社ノトツグ
 能登DMC合同会社
 株式会社ESCCA
 リコネクト株式会社

一般社団法人NOTORN
 東北大・東北圏地域づくりコンソーシアム
 一般社団法人第3職員室
 日本災害救援ボランティアネットワーク
 一般財団法人能登金沢強力チーム
 金沢大学有志団体 石川・能登未来知図
 一般社団法人東の食の会
 山中晶一
 特定非営利活動法人ユナイテッドかながわ
 特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会
 株式会社バリューシフト
 (株)KT VACE
 NPO日本テントサウナ安全協会
 FPTコンサルティングジャパン株式会社
 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン
 のと救援隊
 一般社団法人四番隊
 黒濱寛生
 株式会社なんで・なんで
 ランドブレイン株式会社
 特定非営利活動法人アスヘノキボウ
 特定非営利活動法人ESUNE
 NPO法人ボランティアインフォ
 浪分幸恵
 一般社団法人ソーシャル・キャピタル共創機構
 七七支援隊
 角田直之
 株式会社 丹青社
 岩正人
 太鼓と器KIMURANOKI
 合同会社 阿蘇ジーザスフォレストリー

② 企業連携

事例1

地域越境ビジネス実践プログラム受け入れ

株式会社ドコモgacco



4ヶ月間、能登の企業や団体に派遣され、業務時間の20%を使って課題解決に取り組む越境研修プログラムに参画し、株式会社NTTコミュニケーションズから1名を能登復興ネットワークで受入れ。受講生は、オンラインで活動に参画し、能登の現場における支援データの見える化を行っている。そのほか、能登復興ネットワークの広報面での課題解決に取り組んだ。

事例2

プロボノ派遣受け入れ

株式会社三井ファイナンスグループ



半年間、SMBCグループから3名がプロボノとして能登復興ネットワークに参画。オンラインで活動に参加し、バックオフィスやボランティアマッチングのマニュアル化、SNSの発信業務などを行った。

事例3

社員の能登派遣コーディネート

イオングループ



震災前より能登での視察研修を行ってきたイオングループおよびイオン労組連合会が本格的に能登支援を行うにあたり、情報共有やコーディネートを行った。先遣隊や労連の現地視察や情報共有会議での連携により、輪島市災害ボランティアセンター、のと復興ラボの民間ボランティアセンター等に、イオンの社員、労連の職員を派遣する支援につながった。

③ 人的支援

事例 1

災害支援基金プロジェクト



全国の中間支援組織による災害支援基金プロジェクト(SSF)は、被災地域の中間支援組織による緊急期・復旧復興期の活動を、人材・資金・ノウハウ・ネットワークで支えている。株式会社御祓川がSSFの会員であったことで、能登復興ネットワークの立上げにあたって、資金や人材、ノウハウについて全面的な支援をいただいた。

事例2

NPO法人ETIC./ チャレンジコミュニティプロジェクト



全国で社会起業家を育てるNPO法人ETIC.によるコーディネートで、能登の中間支援組織である株式会社御祓川のもとに、右腕人材が次々と送り込まれた。能登復興ネットワークの立上げをはじめ、避難所アセスメント、情報共有会議のファシリテート、復興計画づくりの業務等を担当。派遣元は、全国の中間支援組織が参画するチャレンジコミュニティプロジェクトのメンバーを中心としたコーディネーター陣。

ETIC.主催の報告会は全4回開催・のべ670人参加

事例3

(一財) 社会変革推進財団



震災前に、休眠預金の資金分配団体として、株式会社御祓川を支援していた社会変革推進財団

(SIIF) から、社員の皆様を派遣していただき、事業者ヒアリングをはじめ、能登復興ネットワークの事務局を担った七尾未来基金設立準備会の本体事業立て直し、里山里海未来財団の立ち上げについて全面的な支援をいただいた。

ご支援ありがとうございます。

能登に心を寄せていただいたことは、長い復興の道のりを歩むうえで、何よりもの支えとなります。皆様からいただいた寄付金は、「能登が能登らしく」復興していくため、能登地域での活動支援に大切にに使わせていただきます。

能登の復興には長い時間がかかると思いますが、多くの方々のご支援によって、より良い地域をつくりあげ、未来につなげることで、御恩に報いたいと考えております。これからも、ネットワークの力によって数々の困難を乗り越えていく所存です。支援してくださった皆様には、今後ともお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024年度いただいたご寄付・ご支援

(2025年3月31日時点)

■ 直接寄付

- ・LINEヤフー株式会社 様 (30,000,000円)
 - ・ロート製薬株式会社 様
 - ・株式会社 飯尾醸造 様
 - ・リシャールミル ジャパン財団 様
 - ・全国競馬産業労働組合連合会 石川県きゅう務員共助会 様
 - ・京都橘ライオンズ 様
 - ・ロートニッテン株式会社 様
 - ・川北秀人 様
- その他、52の団体・個人

■ クラウドファンディング

(2024年1月23日～3月4日)

607名 11,576,411円

■ Yahoo!ネット募金

4,521件 3,411,728円

■ SSF災害支援基金（事務局：NPO法人ETIC.） 7,344,000円

04 2025年度に向けて

ふりかえり

能登半島地震後、私たちはずっと「能登らしさとは何か？」と自問してきました。この「らしさ」を明確にすることは、簡単のように見えて意外に難しいもの。あまりに当たり前に手元にあるものは、その価値に気付きにくいからです。

そこで感じたのが、皆さまとのつながりの大切さでした。被災後、人的・物的側面から能登を支えていただいたおかげで、私たちは少しずつ日常を取り戻しつつあります。崩落した道路は新たに造成され、水道や電気は復旧し、仮設の商店街の営業が始まりました。

そして、その過程において、能登を訪れた方々から「能登って〇〇〇なところが良いね」と言われる度、自分たちが営んできた暮らしや風景の尊さを認識できました。豊かな海と山。それと密接に結び付いた生活。他人を家族のように大切に思う風土。黒瓦に代表される伝統的なしつらえの住宅…。こうした有形無形の「らしさ」の数々は、これから復興が本格化するフェーズにおいて、私たちの羅針盤となってくれると考えています。

2025年度の活動

能登は地震直後の緊急期こそ脱しましたが、今なお住宅や仕事を失ったまま生活を再建できていない被災者が大勢います。倒壊した住宅の解体は進んでいるものの、残った更地をどうするかという新たな課題が浮上しています。

発災から時間が経過するにつれて世間の注目度が下がってしまうのは、仕方のない面があります。

でも、当の私たちにとっては、まだ過去の話ではありません。能登では日々、新たな課題が生まれ、解決策が生まれ、また課題が生まれており、現在進行形で状況が移り変わっているからです。

私たちは2025年度、これまで以上に被災地の「いま」を発信し続けます。応援くださる皆さまとのつながりを大事にしながら、これから能登を応援しようとしてくださる方々にも私たちの現在地が届くように。そうやって復興の担い手を地域内外で増やしながら、長い長い道のりを着実に進んでいきたいと思っています。

ご寄付はこちらから

銀行名：のと共栄信用金庫
支店名：本店営業部
口座種類：普通
口座番号：3119930
口座名：一般社団法人能登復興ネットワーク
カナ口座名：シャ) ノトフッコウネットワーク



お手数ですが、お振込いただいた後、
上のフォームに情報をご記入いただけます
と幸いです。

Yahoo!ネット募金

YAHOO! JAPAN ネット募金



LINE
公式アカウント



一般社団法人能登復興ネットワーク
2024年度 活動報告書

編集・発行：一般社団法人能登復興ネットワーク

石川県七尾市生駒町3番地3
<https://nrn-iyasaka.net/>

